

地域懇談会実施報告書

自治会名	常盤清水地区
開催日	9月26日(水)
時間	19:00~21:00
開催場所	清水公民館
参加人数	47人
懇談内容	別添 議事録

質問等日回答を要するもの

- ・カラスの農作物被害が多くなり、対策を講じてもらいたい
- ・コングランド跡地での不法投棄に対する市の対応について

対応

持帰り自治会長宛に文書で回答

行政側参加者氏名

庶務課長 酒井 富雄

常盤公民館 勝野 富男

浅野 幸一

記録者 勝野 富男

清水地区地域懇談会会議録

1. 開会あいさつ 自治会長
2. 市長あいさつ 4次総合計画「きらり輝くおおまち」ダイジェスト版の説明
3. 懇談 19時30分～

国営公園の開園 について

出席者

国営公園の開園が先延びになってきているが、21年には確実に開園になるのか。一時より悪臭は改善されてきているが、大町農産の悪臭対策はどうなっているか。

市長

今年の5月に、「平成21年の春季に開園」と明示された。開園月は明確ではないが、開園時期はずれることはないと考えている。「一部開園」との言い方で、第一期分の開園と考えてよい。

建物はだいぶ出来、林間トレールなど新しい施設も出来てきている。

建物(ハード)の整備は出来てきているが、運営の内容については国土交通省の仕事になるが、地域と密着した運営、地域と連携した運営が大事である。公園内部の運営だけでなく、公園来場者がこの地域全体に足を伸ばしてくれるような仕掛け作りは市の仕事となる。この部分については、市の条例で新たに審議会を作ることになった。国営公園を軸とした地域振興を、これから残された1年半あまりで地域側から国営公園へ提案し、公園側からも地域に広がりをもつような発想のキャッチボールのやり取りの出来る仕組みを作って行きたいと思っている。

悪臭問題は、かつてよりは臭いがだいぶ少なくなったと聞いているが、時期・時間によってはまだ臭いが出る様だ。

対策として、国営公園のエントランス部分に視覚的に「いちい」の木を植樹することになっている。市側としても植樹を検討しており、事業者にも事業所の回りに目隠しの植樹をしてもらうことになっている。

過去に移転の話もあったが、不可能のため、現地で事業を継続するなかで臭いを最小限に抑えていくこととなった。アイデアを出し合いながら対策を進めていくこととしている。

土壌改良や EM 菌などの実効を確認しながら利用の検討をしていきたい。現在、信大と包括支援協定を結ぶことを模索しており、必要な助言を得ていきたい。また可能なら、県の農政部にも臭気対策について研究もお願いしたいと考えている。

カラス対策について

出席者

カラスが増えており、野菜やマルチに被害が出ている。大町農産は臭いだけでなく餌場となっているように思われるので対策をお願いしたい。相当数のカラスが農産の方に飛んでいく。

市長

原村の周辺の電線にカラスがとまっているのをみたことがある。清水特有の事なのかどうか。国営公園内にカラスの餌となるものがあるとは考えられないし、畜産施設の周りにカラスの餌となるものがあるのか、良くわからないので、この件については持ち帰って確認し返答したいと思う。

不法投棄について

出席者

コングランドの跡地が荒廃しており、管理者はいるようではあるがその後の状況を市は確認しているか。跡地でキャンプをする者も多くゴミが課題となっている。また上部の東砥沢の鉄骨堰堤付近でもキャンプ者が多い。餓鬼岳の登山道も荒れており、これらへの対応をどう考えているか。

市長

コングランドの経営母体がどうなっているか承知していないので、市が確認しているかどうかを含め後日回答する。

建物が老朽化していれば、現在の管理者に撤去を行政としてお願いしていきたい。また、キャンプなどで入り込んでゴミなどを不適切に散乱などされてはいけないので併せて確認したい。不法投棄の心配もあるので、不法投棄の監視の範囲に含め監視していきたいと思う。

登山道の整備については、誰が整備し誰が管理するのか法律的には未整備の部分。危険と裏腹の関係にある登山道を行政が整備し管理するかどうか課題がある。

現在大町市の登山道は各山小屋の管理者の方が自発的に登山道を開けていただいている。餓鬼岳についても山小屋の方が整備されていると思う。市がどの程度関わっていけるか難しいところだが、たとえば登山道の入口に駐車場やタクシー待機場などの整備をする等、市の観光施策としてどのように係わって行けるかを検討することも必要かと思う。

市内の山案内人組合の皆さんから中高年登山者が増えているので、自分たちで登山道の再整備や整備をしていこうという取り組みを始めたいという話を聞いている。

餓鬼岳もボランティアの方の力を借りて整備できればとの感想を持っている。

IターンUターン事業の促進 について

出席者

ダイジェスト版にあるIターン事業について説明してほしい。

市長

都市生活者を対象に、田舎暮らしが勧められており、団塊世代の定年退職等に大町市に来て定住していただくことを進めていく。

定年後しばらくは地域活性化の労働力となり産業の担い手にもなる、また年金生活者は消費活動を通じて地域経済に貢献して頂ける。なんとか大勢の方に住んでいただきたい。

具体的には、美麻・八坂地区ではすでに取り組んでいるが、大町市で定住促進の住宅を新たに建設することは難しいので、空家で賃貸していただける家を活用するため、現在各自治会に空家の調査をお願いしている。取りまとめをし、貸して頂けるものについては条件などを検討して、照会があったときに一覧にして提示出来るような仕組みを現在検討している。

IターンUターンの方がいきなり家を新築して住むことは難しいと思うので、とりあえずこのような空家で生活していただき、地域の良さを知っていただいたうえで永住して頂ける様な対策を講じていきたい。

大町病院の医師確保・職員の対応について

出席者

医師不足が言われているが大町病院の医師確保の状況はどうか。病院職員のサービスはよくなってきているが、まだ安曇病院の方がよいという人も多い。職員教育はどうしているか。

市長

地域の安心安全は、医療が整っているかどうかが大きく影響する。

全国的に産科・小児科の先生が不足しており、今までは信大が中心となり県下の病院に医師を配置してきたが、これが機能しなくなった。県の研究会において地域の中核的な病院、連携強化病院に優先的に医師を配備することになった。大町病院は連携病院とされ、優先的に医師配備が望めない状況にあるので、県に対して連携強化病院とするよう要請している。

大町病院は産科・小児科とも現在は医師2名が折り当分は大丈夫だが、信大の人事のローテーションで医師を1名引き上げられるようなことがあると、医師1名では産科等の維持ができなくなるので予防線は張って行こうと思う。

県の対策として、すぐには間に合わないが、奨学金制度を充実するなど、小児科・産科医を養成するための施策が進められている。

産科・小児科医がこんなに減った理由として、産科小児科の医師の半分程度は女医さんのため、結婚・出産・子育てのためリタイアしていることが一つの要因といわれている。

産科小児科以外でも医師が全体に少ないのは研修制度が変わり、どこでも研修できることとなり、研修医が都市部の大きな病院に集中してしまっている。信大の医学部でも研修医がなかなか残らなくなってきており、地域への派遣が困難になってきている。

大町病院では現況20名の常勤医師がおり、内科の常勤医5人のうち2名が年末までに退職を希望している。慰留をしているが、良い返事を頂いておらず、並行して信大に医師派遣を要請しているが、先ほどの説明の通り難しい状況。大町市出身の医師にもつてを頼りに探している。

病院もサービス業であり、去年の秋以降、医師・看護師・事務職員とグループごとに意見交換をしている。信頼を回復するよう一生懸命努力していこうと話してきた。市長への手紙では、去年は厳しい意見が多く寄せられたが、今年に入ってからはいい評価も増えてきているが、クレームも多いのでさらに努力していきたい。これはお願いだが「みんなが言っているよ」と言うような風評での批判はやめて頂きたい。具体的な事実について指摘いただきたい、それが大町病院を改善していく材料となる。具体的な問題をきちんと解決をして行くことがこれからの大町病院の努力の方向ではないかと思う。

具体的に直した方が良いと感ずる問題があったらご指摘をいただきたい。

大町病院の夜間救急対応について

出席者

大町病院は、夜間・休日の救急患者の受け入れが悪いとの噂を聞いていたが、2年ほど前、母が土曜日の夜倒れ救急車を呼び大町病院への搬送を依頼したが、10分ほど待たされたあげく大町病院では受け入れてもらえなかった。救急隊員が「大町病院はだめだな」と言いながら安

曇病院に打診したところ、医師を病院に呼ぶので向かってくれとのことで、安曇病院で対応してもらった経験がある。それ以来大町病院に不信感があるし噂通りだなと感じた。要望になるが、市長の話のように十分な説明や受け入れを検討してほしい。

市長

夜の宿直医は当番制で実施しており、専門以外の急患には対応できないこともあり、その場合、自宅で待機している医師を呼ぶことになるが、この医師も駆けつけることができない場合にはお断りすることもあるかと思う。大町病院は救急病院に指定されているのでそのようなことがあってはならないのが原則。対応できなかった理由を丁寧に説明すべきだったと思う。大町病院では医師不足が課題となっており、解消に努力したい。脳外科が安曇野日赤に集約され医師がいなくなったことにより、大町市をはじめ、白馬・小谷からの遠距離の患者対応に問題があるので、大町病院での脳外科が再開できるよう要請している。医師を確保すること、医師が患者にきちんとした説明をすることが医療サービスの原点と考えている。

救急隊員の教育について

出席者

今の質問にあった病院の対応もあると思うが、「大町病院はだめだ」という、患者を不安にさせるような言動をする救急隊員ではだめだ。冷静な対応ができるよう消防職員を教育すべきではないか。

市長

北アルプス広域消防では88名の隊員で6万人弱の住民の対応をしている。南北に長いこの地域での定数88名は厳しい状況。この地域の特性は山岳遭難もあり多忙ではあるが、命を預けている患者を不安にさせるようなことがあってはならないこと。本日頂いたご意見をきちんと消防本部へ伝え、改善する。

財政状況について

出席者

実質公債費比率が県下でトップクラスというが、八坂美麻との合併の時には財政が逼迫すると言ったような説明は聞いていない。このような状況になった要因と総合計画を進める上で支障とならないか説明願いたい。

市長

財政状況を分析する指標はいくつかあるが、先日発表されたのは実質公債比率。18年度は21.3パーセントで県下の市の中ではトップで、市の財政規模に対する借金やそれに準ずる経費の割合を示す指標。高くなった要因はいくつかあるが、合併前の美麻・八坂村の借金の返済金もあるし、大町においても過去の施設整備費の償還金がピークになっている。下水道の償還期もピークであり、大町病院の建設費の償還金も含まれ、公債比率が上がっている。

大町市の財政は体力はあるが、虚弱体質であるかと思う。計画に従い無駄な投資を避け優先順位等事業を選択することによって悪化させないよう10年計画で改善するよう計画を作り、ご心

配をおかけしないよう財政状況をわかりやすく公表をしていくこととしている。市民の皆さんにも市財政に関心を持って頂きたい。

国営公園スタッフの雇用・周辺道路整備について

出席者

国営公園が開園となるが、公園運営スタッフ等の雇用については市も関与するのか。地元からの雇用を期待しているがどうか。
過去にゴルフ場を計画した会社の建物が残っているがどのようになっているのか。
ふるさと農道の大崎から先の計画はどうなっているのか。
以上3点説明してほしい。

市長

公園職員の地元雇用は今までも要請しているが開園に向けさらに要望を強めていきたい。堀金・穂高地区の例では運営は国の外郭的な団体が行っており、幹部職員以外は地元で採用されている。大町地区も同じような運営になると思うので、地元雇用を要請していく。地元雇用で求人した場合、どの程度応募者があるのか不安な面もあるが、早めにどのような職種の雇用があるか皆さんにお知らせできるようにしたいと思う。
3月の定例議会でも老朽化したゴルフ場の建物について意見がでたが、精算会社と連絡が取れない状況にあり、市としても努力するが現在は目途が立っていない。
ふるさと農道は大崎から東へ伸ばす計画があり、より具体的に進めるよう水面下で調整している。地権者とのすりあわせに入っている状況。21年の開園に間に合うことは難しいが、開園による渋滞等で地域の皆さんに迷惑の掛からないよう早く開通できるよう努力している。

産業振興について

出席者

ダイジェストで説明があったが産業振興は具体的にどう進めるか。

市長

地域が心豊かであるには経済的にも豊か、精神的にも満足できる地域作りが重要。そのためには働く場の確保地域の産業が活力を生み出していくことが必要だと思う。

製造業では、水資源や電力資源があったから昭和電工・東洋紡の大企業が立地したが、言い過ぎではあるが、これらは市民が努力して得た物ではないといえるかと思う。素晴らしい自然景観にしても市民が努力して手に入れたものではなく天からの授かり物であった。産業も私たちが努力して作り上げたという経験がなかった。自然景観と同じように、言ってみれば天からの恵みで豊かな地域であったということができる。

東洋紡が撤退し、昭和電工の規模が縮小され、この地域をなんとかしなくてはならないという市民にとって初めての試練の20年だったと思う。

製造業としての働く場所を確保するため、恵まれた自然を生かせる企業として東洋紡の敷地跡にホクト産業を誘致したが、まだ4分の3の工業用地が残っている。この敷地は東洋紡の所有だが、市と共同で新しい企業誘致をすることになっている。

市内にはほかにも工場適地が点在しており、大町の良さを知り大町市を好きになっていただいた企業で、また市民に愛される企業の誘致に取り組んでいる。私もセールスマンとして担当部局と共にやって行こうと思う。

高速交通網から大町市は外れているというハンディーがあり、現在アクセス道としての松本系魚川高規格道路のルート決定も含め一日も早い整備を県に要望している。企業経営者によれば道路も大事であるが、その地域や市が企業を暖かく迎え入れてくれるかどうか最大の課題だという人もいる。熱意が大事だとも言われている。

また、現在市内でがんばって頂いている企業と対話をして市への希望等を聞いて改善に努めている。例としては、既存企業の工場へのアクセス市道の改良に関する予算を9月議会で予算化した。できることから議会と相談して進めていきたいと考えている。

観光業は大町の経済の約3分の1を占めている。観光業は現金収入になり、裾野が広いので大事にしていきたい。安曇野市から北に誘客を進める手だてが重要と考えている。観光については行政がなかなか直接かわれる分野が少ないので、地域の皆さまや観光に携わる皆さまに知恵をいただきながらがんばっていただけるように工夫していきたい。

地域の特産物を買ってもらえるように道の駅など、市内でも情報発信の拠点が整備出来るように水面下で努力している

下水道の進捗状況について

出席者

21年に国営公園が開園となるが、下水道事業の進みぐあいはどうなっているか。

市長

当初計画は相当広い範囲を公共下水道、農業集落排水で管渠を繋げることとしていたが、人家が散在しているところは不効率となるので見直しをし、そのような場所では合併浄化槽で処理していただくよう区域の見直しをしてきている。見直しにより常盤地区でも公共下水道で処理していただく区域が明確になった。22年度中には本管の敷設はほぼ完成する見込み。

仁科台中学校の改築・広域のゴミ処理計画の進捗状況について

出席者

仁科台中学校の改築が計画されているが、電車通学する常盤地区からの生徒は南大町の駅から歩くことになるので、どうしても現地での改築が必要なのか。駅の近くに移転はできないか。また、白馬に計画しているゴミ施設の状況を説明してほしい。

市長

改築計画の進捗状況は、現在基本設計を行っている。今後実施設計を行い20年度中に着工して3年間で完成予定。建設場所についてはさまざまなご意見があり、例えば大町は南に発展しているので東洋紡跡地を含めできるだけ南に造るのがグランドデザインだとの意見もいただいたが、東洋紡の跡地に建築する場合は新たにその土地を取得しなければならない。大きな問題として資金がかかる。また現在の中学校を造るに当たっては当時、地権者の皆さんや周辺の皆さんのご理解によって建築されたものであり、そこを処分し引き払うことについては難しさがある。この2点から現在地で校庭に校舎を、校舎の跡地にグランドを作ることで基本設計が進んでい

る。

現在のゴミ焼却施設は大町市単独の焼却施設があるが、一定の期間で耐用年数が来るし、その後は修理費等維持費がかさむことから、新しい施設は北アルプス広域連合、実質的には大町、白馬、小谷の1市2村により建設しようと話を進めてきた。2月に候補地を白馬村の飯森地区の林を候補地として決定し、周辺のご理解が頂ければ、環境アセスメント調査などを1年ほどかけて実施し、そこが適地となれば建設場所として確定して建設を進めていきたいとしてきた。

2月中旬から地元説明会を実施してきているが、周辺住民からの反対が出ている。白馬村内での地域説明会がほぼ一巡するのでそれらの声も受けた上で、今後広域連合として理解がいただけるようさらにきめの細かい説明を根気強く進めていきたい。当初予定していたよりは時間がかかりそう。

4. 閉会あいさつ 自治会長
牛越市長

【終了 21:00】